



特集

みんなで育むつながり広がる

こども食堂

■問合せ…こども家庭センター（☎025-520-5725）

子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりは、地域全体で取り組む大切な課題です。「こども食堂」は、子どもたちに食事を提供するだけでなく、利用者、運営者、支援者など、人と人とのつながりを育み、地域に笑顔と安心をもたらす場として広がっています。市では昨年3月に策定した「上越市こども計画」に基づき、こうした活動を支える取り組みを進めています。今号では、市内で活動するこども食堂の現状や、市民としての関わり方などについて紹介します。



こども食堂はこんなところです

子どもが1人でも利用できる食堂で、無料または低価格で食事を提供しています。地域住民やボランティアが運営し、食事だけでなく「地域の交流の場」としても機能しています。

こども食堂の特徴



多様な参加者



子どもを中心に、若者から高齢者まで幅広い世代が利用したり、活動に参加したりしています。

多様な活動



食事の提供だけでなく、学習支援やレクリエーションなど団体によってさまざまです。

私が紹介します



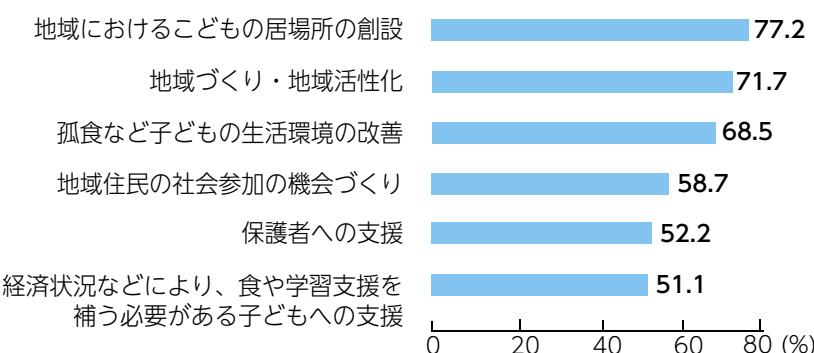
新潟こども食堂・居場所ネットワーク
「にこねっと」事務局
(くびき野NPOサポートセンター)
新保さん

「にこねっと」は、新潟県内のこども食堂や子どもの居場所の県域ネットワークです。子どもが安心して笑顔で過ごせる地域を目指し、各運営団体の支援や、各団体と地域・企業などをつなぐサポートに取り組んでいます。



にこねっと
ホームページ

こども食堂を立ち上げた目的



(出典) にこねっと「新潟こども食堂・居場所白書2024」を基に作成



市内のことども食堂



よんまる。

- ▶開催頻度…月1回
- ▶ところ…ごはん処よんまる。(東城町3)
- ▶対象者…どなたでも



よりみち堂

- ▶開催頻度…月1回
- ▶ところ…福祉交流プラザ(寺町2)
- ▶対象者…中高生



いちょう食堂

- ▶開催頻度…月1回
- ▶ところ…最賢寺(南本町3)、
南三世代交流プラザ(南本町3)
- ▶対象者…南本町小学校区在住の子ども

令和7年度上越市子どもの
居場所づくり支援補助金活用

なおえつこどもLabo.

- ▶開催頻度…月1回
- ▶ところ…無印良品直江津(西本町3)
- ▶対象者…小学生

こどもたち食堂

- ▶開催頻度…月1回
- ▶ところ…ライブハウスバートモ(西本町1)
- ▶対象者…小学生から高校生

三和ふれあい食堂

- ▶開催頻度…2カ月に1回
- ▶ところ…三和保健センター(三和区)
- ▶対象者…三和区在住の子ども

あそび場ちゃや食堂

- ▶開催頻度…月1回(第1土曜日)
- ▶ところ…清里いばしょベースCha-ya(清里区)
- ▶対象者…どなたでも

さとまる食堂

- ▶開催頻度…夏休み(週1回、全5回)
- ▶ところ…中郷コミュニティプラザ(中郷区)ほか
- ▶対象者…中郷区在住の小中学生



(出典) 県ホームページ「県内こども食堂一覧」を基に作成



こども食堂へのさまざまな関わり方

こども食堂の多くは、地域住民や企業などからの寄付やボランティアなど、さまざまな支援を得て運営されています。

まずは、こども食堂に足を運んでみてください。自分なりの関わり方を見つければと思います。



関わりその① お手伝いをする

食事の準備や子どもの見守り、子どもたちへの体験の提供など、さまざまなお手伝いが可能です。



関わりその② 寄付をする

自分で育てた野菜など食材の提供や食器・調理器具(未使用品)の寄付、金銭面での支援など、さまざまな寄付の形があります。



＼立ち上げたい人は／

「上越市子どもの居場所づくり支援補助金」を活用してみませんか

食事の提供、学習の支援、遊びや体験などの機会のいずれかを提供する「居場所」を新たに開設する人を対象に、補助金を交付しています。令和7年度は、この補助金を活用した4団体のうち2団体がこども食堂を立ち上げました。

●補助金額=上限10万円



詳しくは



こども家庭センター
齋藤主事



こども食堂を運営している団体に思いを聞きました

地域の未来を考えるワークショップで出た意見を実現する形で、令和6年3月から「あそび場ちやや食堂」を始めました。利用時の申し込みを不要とし、対象者も限定しないことで、いろいろな人が参加しています。多様な人との出会いと交流から生まれる「ごちゃまぜ」の環境が、子どもにも大人にも良い影響があるのだと思います。

月1回の開催ですが、今では子ども同士で誘い合って参加することも増えたと聞いています。遊び場や居場所の一つとし



幅広い世代の参加者がみんなで食事を囲む

多様な参加者同士の出会いを大切に

現在は食事の提供に加えて、外遊びの場や地域の居場所として隣接地の整備も進めています。子どもだけでなく、多くの人から自分の居場所として関わってもらえる場所にしていきたいです。

大人1人の参加も、お手伝いしてみたいという方も大歓迎です。

私たち、若者が性や体の悩みなどについて相談できる「まちの保健室」を運営しており、中高生からは「相談の場はハードルが高く、足を運びにくい」という声がありました。もっと気軽に立ち寄りやすい場所を作るため、市の「子どもの居場所づくり支援補助金」を活用し、令和7年11月から月1回、おいしい物を食べながら雑談できる居場所「よりみち堂」を開催しています。

運営に当たっては、進路などの大きな選択をする前の中高生に、食べた



あそび場ちやや食堂

(清里いばしょベース Cha-ya)

代表 高木さん

千葉県から地域おこし協力隊として移住し、退任後にこども食堂を開設。申し込み不要で赤ちゃんから高齢者まで、幅広い世代が集う「地域の居場所」となっている。

Instagram



中高生が自分らしい選択ができる居場所に

い物を選ぶような身近で小さな選択を通じて、自己決定のきっかけを提供するなど工夫しています。

今後は、ユニークな人生を歩んでいる方をお招きするなど、さまざまなおとづれを共有する場所として、心地よい居場所としてお届けします。

大学生ボランティアも一緒に食事の用意



よりみち堂

(ユースクリニックにいがた | わがんあいご)

代表 霜鳥さん

フリーの保健師として活動しながら、看護師などのメンバーと共によりみち堂を開設。中高生を対象とした「放課後の秘密基地」のような心地の良い居場所を目指している。

Instagram



＼立ち上げたい人、支援したい人、利用したい人へ／

こども食堂の相談窓口

- 「にこねっと」事務局（くびき野NPOサポートセンター内、☎025-522-6639）
- こども家庭センター（☎025-520-5725）

